

恩師近況

「ありのままに」

松浦 昭

(兵庫県立大学名誉教授)



退職を機に、バ
スで1年間をかけ
て四国八十八ヶ所
霊場巡りをして俗
世間の穢れを少し

でも落とそうとしました。今にして思えば、そこには高齢者も多く10年後の私の姿を見ることができたはずですが、その時には気づきませんでした。

そのあと、しあわせの村にある「シルバークレッジ」の食文化コースに入学し、そこで3年間調理実習を学びました。これまで経験したことのないことを学びたいと思いい食文化コースを選びました。

このコースはたいへん人気があり、3年間待たされ4年目にやっと入学できました。卒業後も月に1回、新長田の合同庁舎の一室を借りてパン作りや季節の料理を生徒同士で教えあって作っています。

退職後は人付き合いも減りますが、貴重な仲間と出会えて幸せです。

残念ながら75歳頃から体力が急激に衰え、以前のように山歩きもできなくなりました。ほかにも不具合は出てきています。最近桂文珍さんの独演会に行きましたが、50%ぐらいしか聞き取ることができませんでした。聞こえない落語ほどつまらないものではありません。

それまで補聴器を作ろうと迷っていましたが、このことで補聴器を作ることを選択して補聴器外来に通っています。

人生のゴールに近づきつつある今、子供達にこのような社会しか残せなかったことをとても恥ずかしく、申し訳なく思っています。

私たちは、戦後の貧しさから将来に少しずつ明るさや希望を感じながら生きてきました。だがこれからの10年後、20年後を想像したとき暗いイメージしか思い浮かびません。

財政破綻、少子化・人口減少は出口を見出すことができません。福島原発は負の遺産を永久的に後世の人々に残すことになりました。

付度といった言葉が跋扈しています。戦争をしてはダメだという思いも踏み込められそうです。軍拡は何としても阻止しなければいけません。

しかし、ここで諦めるのではなく明るい未来が実現できるように少しでも努力して行きたいと思っています。

「ますます意気盛んに」

池田 潔

(兵庫県立大学名誉教授・大阪商業大学総合経営学部教授・日本中小企業学会会長)



兵庫県立大学に
在職したのは20
04年から16年ま
での12年間だが、
現在は大阪商業大

学で引き続き教育・研究を行っており、昨年11月からは日本中小企業学会の会長も務めている。もうしばらく現役を続ける予定だが、最近の出来事としては体力維持のために(向上ではない)ジムに通い出したことや、娘がやっている畑を手伝い出したことがある。

ジムは、一つ年上の義理の弟と飲む機会があり、そのときの会話がきっかけである。ただ、私自身は生来の面倒くさがり屋のところがあり、自発的なジム通いは無理と思いついて、インストラクターについてもらっている。インストラクターから次回は何月何日の何時からにしましょう、と言われるとそそくさと出かけるのである。とはいえ、週一くらいのペースなので、効果のほどはわからないが、マシンに座って腹筋したり、手足を動かしたりしていると、決まってあと3回と言われ、その声に押されてついつい頑張ってしまう。

うのである。私的には最後の3回が、けつこう体力維持には重要ではないかと考えている。

畑の方は、作業療法士をしている娘が、障がい者とその家族が収穫体験や軽い農作業ができるように畑を借り(これがけつこう広い)、いわゆる農福連携を行っている。押部谷にあるその畑では、農薬を使わない有機農法で栽培しているため、雑草がものすごい勢いで伸びてくる。これを手鎌や電動草刈り機で刈るのだが、今年の夏は暑かった。二度ほど軽い熱中症にかかり、畑の横のテントでのびていた。晴耕雨読とまではいかないが、無心になって草刈りしていると、思わぬところで研究につながるアイデアが浮かんだり、帰宅してからのビールが格別であった。

研究面では、40数年中小企業研究をやっているが、その多くは現場で経営者と話をする中でヒントをもらい、帰納的に考察するスタイルでやってきた。近年の成果として、『地域・社会と共生する中小企業』(ミネルヴァ書房 2022年)がある。中小企業の本質は、これまでの問題性、発展性、両者の統合物を経て、地域・社会と共生することにあるとした。